行動計画テーマ3関連

エネルギーの使い方にも配慮した
生活様式の確立

～スマートハウスの普及とシンプルライフを実現するまち環境づくり～

テーマ3：(1)計画の全体概要

■ 目的

賢いエネルギー消費とスマート化による安全・快適・素敵な暮らしの実現

■ 前提

スマートグリッド、光回線など各種インフラが整備されていること

■ 展開する主な個別事業

スマートハウスモデルづくりと普及促進※	・本市市街地で素敵で格好の良いライフスタイル形成が可能な様々な機能を有し、賢いエネルギー利用等を支えるスマートハウスモデルを整備する。また、“戸建新築”“戸建既築”“集合住宅”を中心に既実施補助事業の拡張・継続し、スマートハウスの整備拡大を促す。
エコライフコンテスト等スマート市民生活の普及促進※	・ICTを用いて、個々の市民の環境行動、資源回収・環境保全活動への参加情報等を集約し、環境貢献度を数値化する仕組みを作る。また、ボランティア等の貢献はエコポイント化する。
グリーン電力・熱証書・エコポイントの管理※	・エコポイントや各世帯で発生するグリーン電力・熱証書（以降グリーン証書と呼ぶ）はICTを介して一元管理し、後者を企業等にまとめて売却する。これらは地域商品券化して市民に還元、市内に循環させる。
エコよい場等の整備※	・公共施設やコミュニティカフェやガーデン等に市民が集まって過ごすことで、楽しみながら個々の世帯のエネルギー消費を削減し、地域の結びつき強化にも寄与する仕組み（「エコよい場」と呼ぶ）を構築する。
スマートタウン（市街地）モデルの段階的整備※	・区画整理地区等に住宅を誘導（集約）する際、スマートハウスでの新築を促し、面的な集積を目指す。街区単位でのエネルギーマネジメントがなされ、各地の特性に適した生活者の安全・快適・素敵生活が担保されたスマートタウンの段階的整備を推進する。

※印の項目については、具体的な進め方について後述する

テーマ3：(2)テーマに係る背景①

市街地生活の良いところ（市民ヒアリング）

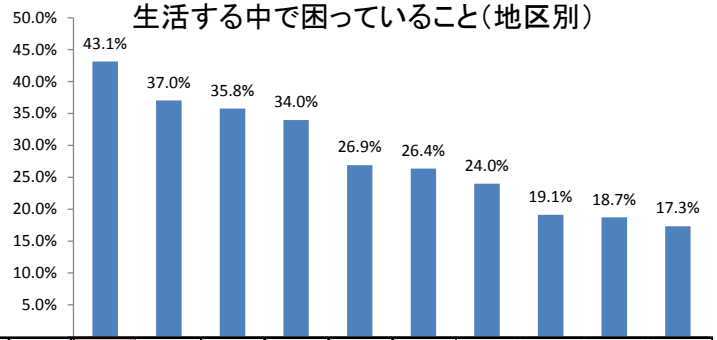
○交通アクセス環境：九州新幹線川内駅もあり、幹線道路やバス路線も充実しており、毎日の通勤、通学から充実している日頃の買物までアクセス環境が良い。

○医療・子育て環境：医療機関も多く、子育てや教育環境が良いことなどにより市の市街地生活者の生活満足度はとても高くなっている。また地区コミュニティは機能しており、地域の見守り体制等は比較的充実している。

市街地生活の良くないところ（市民アンケート）

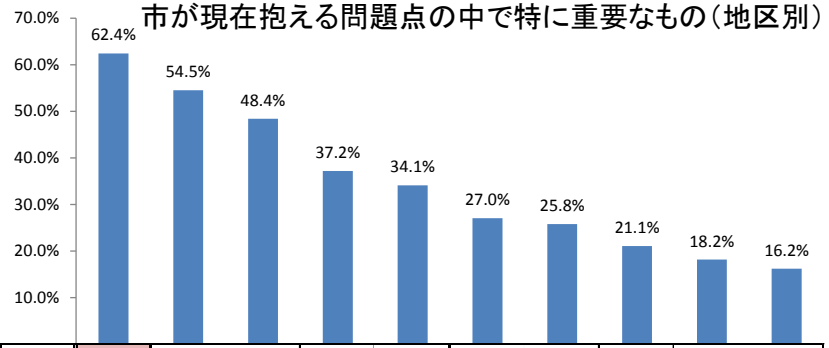
○市が現在抱える問題点の中で特に重要なものを聞いたところ「中心市街地での空き店舗の増加」が62.4%で最も多く、川内地区居住者からの回答が多い（68.6%）。

○生活する中で困っていることとして「街灯が少なく夜が暗い」が43.1%で最も多く、特に東郷地区（53.8%）などで顕著になっている。



	合計	街灯が少ない	光熱費の高い	雇用状況	荒山や耕作放棄地	スポーツ・レジャー・文化施設の充実	交通の便	生活必需品購入店舗数及び遠隔地店舗	子育て環境	高齢者の見守り体制	福祉施設の不足
合計	721	43.1%	37.0%	35.8%	34.0%	26.9%	26.4%	24.0%	19.1%	18.7%	17.3%
川内地区	70.6%	44.2%	37.1%	35.0%	30.6%	28.7%	25.3%	20.8%	20.8%	16.3%	16.9%
樋脇地区	6.0%	41.9%	44.2%	44.2%	55.8%	18.6%	27.9%	32.6%	20.9%	27.9%	25.6%
入来地区	5.8%	45.2%	33.3%	40.5%	40.5%	19.0%	28.6%	31.0%	16.7%	23.8%	26.2%
東郷地区	7.2%	53.8%	40.4%	32.7%	40.4%	19.2%	26.9%	25.0%	13.5%	28.8%	7.7%
祁答院地区	4.0%	37.9%	37.9%	51.7%	27.6%	44.8%	51.7%	51.7%	13.8%	27.6%	13.8%
甑島地区	4.7%	23.5%	35.3%	20.6%	41.2%	17.6%	20.6%	35.3%	11.8%	17.6%	26.5%

（出典）薩摩川内市次世代エネルギービジョン　アンケート調査



	合計	中心市街地の空洞化	少子高齢化・過疎化・限界集落の増加	若者の市外への流出	観光資源の有効活用	農林水産業の衰退	製造業の停滞	交通の便	介護施設の不足	地域コミュニティーの希薄化	防災対策
合計	721	62.4%	54.5%	48.4%	37.2%	34.1%	27.0%	25.8%	21.1%	18.2%	16.2%
川内地区	70.6%	68.6%	51.5%	44.6%	39.9%	30.3%	26.7%	25.3%	20.4%	19.1%	17.7%
樋脇地区	6.0%	51.2%	72.1%	48.8%	34.9%	48.8%	34.9%	25.6%	23.3%	14.0%	16.3%
入来地区	5.8%	54.8%	71.4%	59.5%	19.0%	40.5%	38.1%	33.3%	31.0%	14.3%	11.9%
東郷地区	7.2%	59.6%	50.0%	53.8%	28.8%	34.6%	25.0%	26.9%	17.3%	13.5%	13.5%
祁答院地区	4.0%	27.6%	79.3%	69.0%	34.5%	48.3%	24.1%	41.4%	24.1%	27.6%	6.9%
甑島地区	4.7%	20.6%	47.1%	61.8%	35.3%	47.1%	14.7%	14.7%	20.6%	14.7%	11.8%

（出典）薩摩川内市次世代エネルギービジョン　アンケート調査

テーマ3：(2)テーマに係る背景②

家での生活スタイルについて

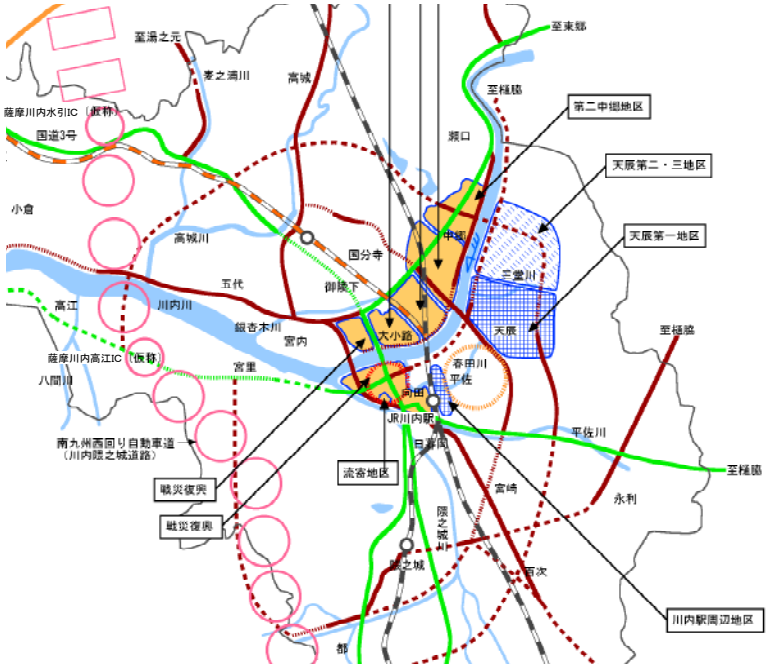
○高齢者、女性の家での生活時間は経年的に17時間以上と長くなっていることから、自宅でできる仕事や余暇活動、エクササイズ等が非常に多くなっている(「社会生活基本調査」「国民生活時間調査」等)。

○全国的に防犯、防災に対するニーズが高くなってきており、ホームセキュリティや防災関連グッズの準備、そして家庭用電源や蓄電池等の準備をしている家庭も増加している。

市街地でのまちづくり計画

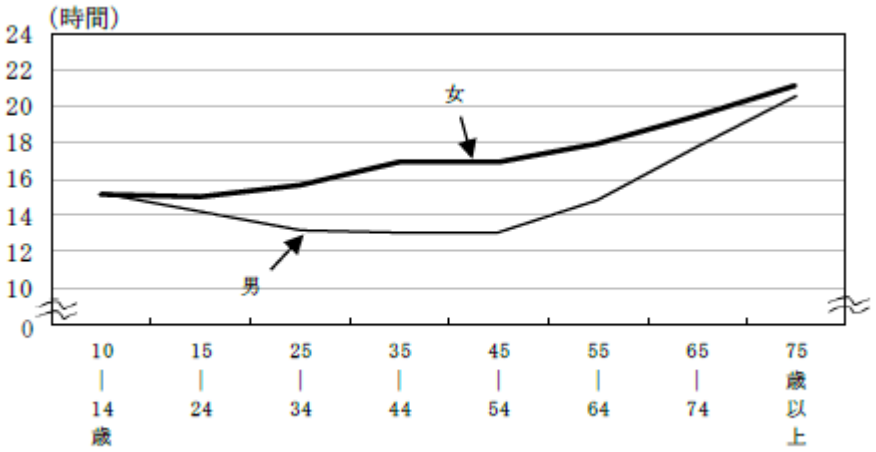
○「薩摩川内市都市計画マスタープラン(平成19年3月)」では、市街地の整備方針の箇所で川内川市街部改修や川内駅の交通結節機能の強化と一体となった市街地整備を進め、良好な住環境の形成を図ることなどが謳われており、各種土地区画整理事業が計画・推進されてきている。

川内都市計画区域市街地整備方針と事業計画



(出典)薩摩川内市都市計画マスタープラン

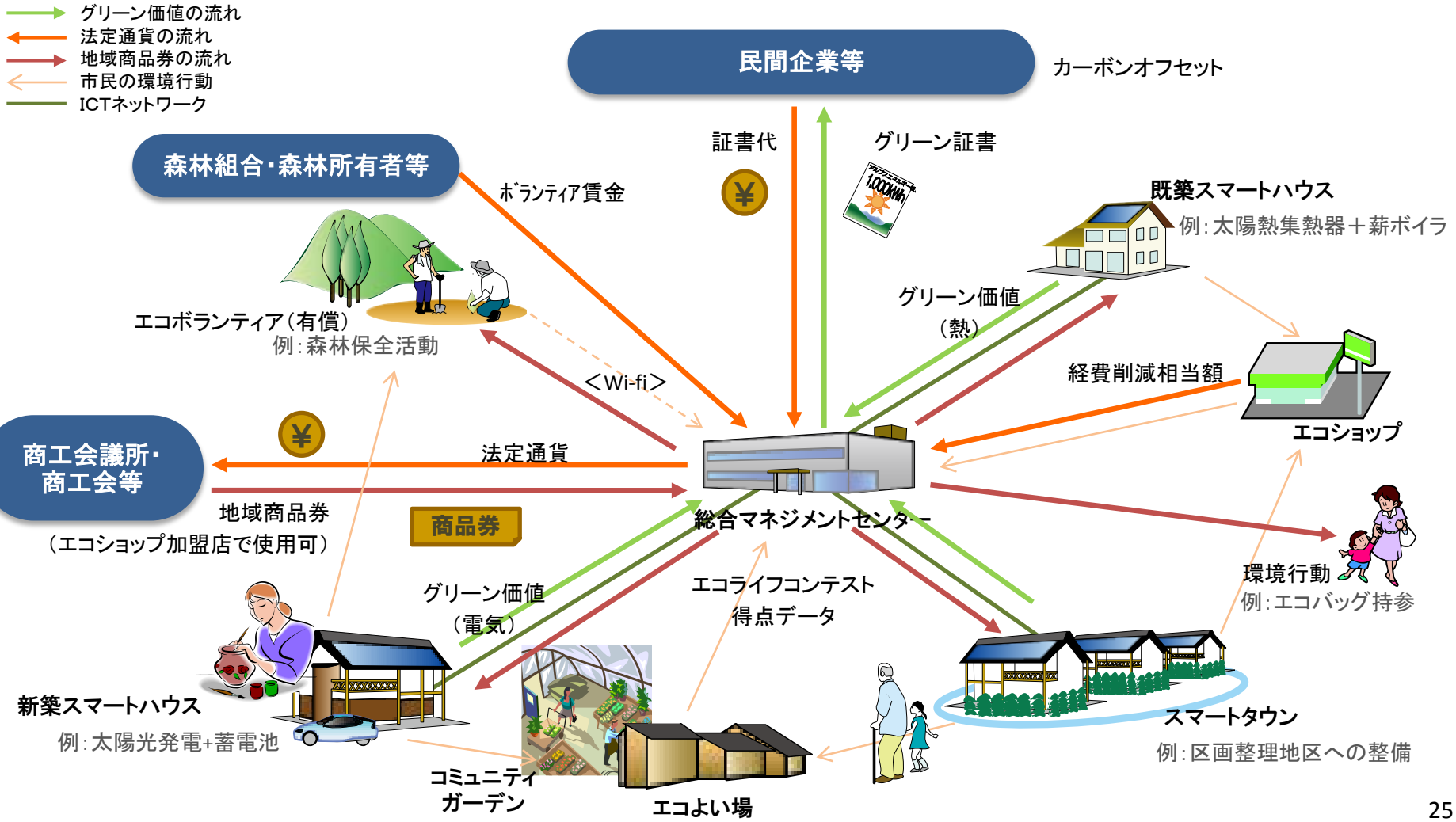
男女別、年齢階級別自宅にいた総平均時間一週全体



(出典)「社会生活基本調査(平成23年)」

テーマ3：(3)モデル全体イメージ

○安全、快適、素敵な自宅生活から地域コミュニティの場や機会、市街地生活を支え提案する魅力的な街区づくりを、エネルギーとICTを利用して実現。住む人が素敵で格好よく、スマートなさつませんだい生活を実現でき、そうした生活を求める人が多く移り住み新たな文化を形成。



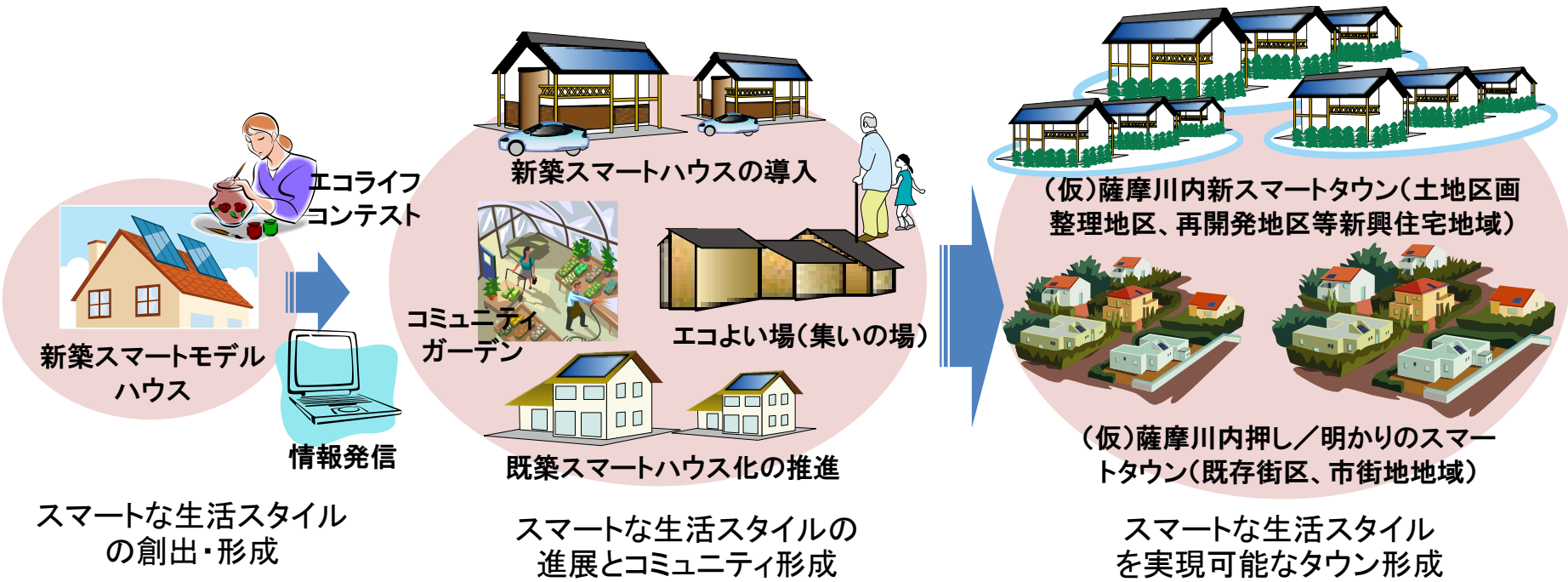
テーマ3：(4)具体的事業展開イメージ①

薩摩川内でのスマートハウスとは

○極力地場材を利用した住宅で、熱と電気を効率的に利用を促す設備やICTの利活用だけでなく、敷地内の資源循環に配慮した菜園や水利用システム、微気象形成の植栽等、環境自立性の高い住宅。
個々のライフスタイルに応じて、アートや創作活動のためのゆとりの空間等も備える。薩摩川内での安全かつ快適な暮らしを創造、実現できる住宅のことを想定。

薩摩川内でのスマートタウンづくりへ

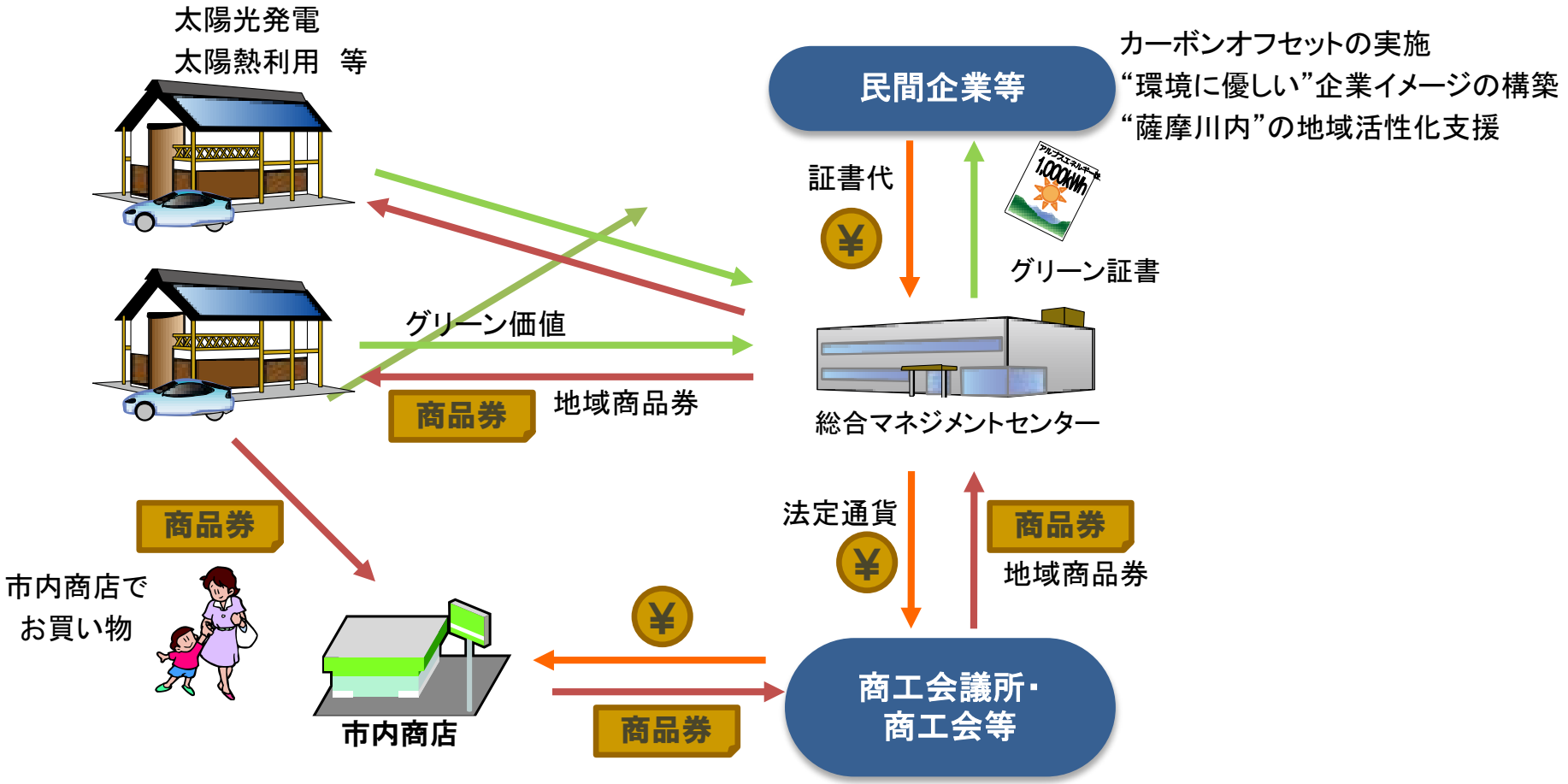
○新興住宅地域（土地区画整理地区等）、既存の住宅地域のいずれの地域でも、地域特性を踏まえつつ、再生可能エネルギーやICTの利用により住む人が素敵で格好よく、スマートな生活スタイルを実現可能なタウン（地域、街区）づくりを進める。既存街区や市街地地域では、薩摩川内の特性である大綱などを使い、「押し」などの地域文化とスマート化の融合や、市民ニーズの高い明るいまち環境の創出（「明かりのまち」）などの地域特性の創出・形成も同時に進める。



テーマ3：(4)具体的事業展開イメージ②

薩摩川内でのグリーン証書展開

○各家庭が個別にグリーン価値をグリーン証書市場で売買するのではなく、市内でグリーン価値を一元管理、および一括売買し、グリーン証書代（法定通貨）を地域商品券として各家庭に還元することで、市内産業の振興に寄与する。



テーマ3：（5）ロードマップ

短期　中期　長期

スマートハウスモデルづくりと普及促進

・市街地にスマートモデルハウスの建築
・せんだいスマート生活の宣伝・PR

・エコライフコンテスト等スマート市民生活の普及促進

市民生活に浸透するスマートライフの仕組みづくり

グリーン証書・エコポイントの管理

スマートタウン（市街地）の推進

・スマートハウス普及に向けた各種施策推進・拡大

・街区等の特性に応じたエコよい場等の整備

スマートタウンモデルの段階的整備と総合マネジメント推進体制の整備